

国際共同研究事業
欧州との社会科学分野における国際共同研究プログラム
(Open Research Area for the Social Sciences)
平成30年度実施報告書

平成31年 4月11日

独立行政法人日本学術振興会理事長 殿

共同研究代表者

所属機関・部局 京都大学・経済研究所

(かじい あつし)

職・氏名 ^(ふりがな) 教授・梶井厚志

1. 事業名 国際共同研究事業欧州との社会科学分野における国際共同研究プログラム
2. 研究課題名 (和文) 動学的環境でのナイト的不確実性の分析
(英文) Ambiguity in Dynamic Environments
3. 共同研究実施期間 (全採用期間)
平成 30 年 10 月 1 日 ~ 平成 33 年 9 月 30 日 (3 年 ヶ月)
4. 研究参加者 (代表者を含む)
(1) 日本側参加者 5 名 (2) 欧州側研究者 11 名
5. 主要な物品購入状況 (単価 (一品又は一組) 若しくは一式の価格が 50 万円以上のものを購入した場合は記載)

物品名	仕様 型・性能等	数量	単価(円)	金額(円)	設置研究機関名

備考： 本事業の委託費と他の経費とを合算使用する際は、合算使用した旨を備考欄に記載した上で、金額は本事業の委託費によるもののみ計上してください

8. 研究実施状況

※ 申請書の内容及び当該年度実施計画書の「5. 本年度実施計画の概要」と対応させつつ、当該年度の研究の実施状況を簡潔に日本語にて記入してください。

実施計画書の「5. 本年度実施計画の概要」に記したように、3月25日から27日まで、欧州側研究代表である Frank Riedel 教授が在籍するビーレフェルト大学において、本国際共同研究事業の最初の会合が開かれ、日本側からは原と兵庫が出席した。主な議題は、申請書に書かれた本事業の研究課題のより細かな設定することであったが、特に、非協力ゲームの理論で多用される展開型ゲームの諸均衡概念を、曖昧さ回避的態度の観点から再検討した。また、本事業の若手メンバーによる研究報告会も開かれた。繰り返しゲームにおける曖昧な戦略の役割の分析、情報を得ることに費用が伴う場合の、いわゆる柔軟性への選好の定式化、実験による曖昧さ回避的態度の検証、などが現在進行中の研究として紹介された。

「5. 本年度実施計画の概要」に記したように、ボストン大学 (Boston University) の Larry Epstein 教授を招き、2019年2月19・20日に龍谷大学において、金融市場の数理分析に関わるワークショップを開催した。その後も Epstein 教授は京都大学に滞在し、定例研究会にて自身の研究を報告した他、本事業のメンバーが取り組んでいる研究課題についてもアドバイスを与えた。

これも実施計画の概要で触れたことだが、日本側メンバーは、ナイト的不確実性の証券市場への既存の応用研究を精査した。特に、動学的確率的一般均衡 (DSGE) 理論やファイナンスで多用される代表的個人モデルに曖昧さ回避の論文を展望し、曖昧さ回避度の推定値が効用最大化問題の設定の仕方によって大きく異なるという問題点を把握するに至った。

9. 研究発表（平成 30 年度の研究成果）

〔雑誌論文〕 計 (2) 件 うち査読付論文 計 (0) 件

通番	共著の有無*	著者名		論文標題			
		Chiaki Hara and Toshiki Honda,		Implied Ambiguity: Mean-Variance Efficiency and Pricing Errors			
①		雑誌名		査読の有無	巻	発行年	最初と最後の頁
		KIER DP Series		無	No.1004	2 0 1 8	—
②		著者名		論文標題			
		Atsushi Kajii and Stephen Morris		Notes on 'Refinements and Higher Order Beliefs			
		雑誌名		査読の有無	巻	発行年	最初と最後の頁
		KIER discussion papers		無	No.1007	2 0 1 9	—
③		著者名		論文標題			
		雑誌名		査読の有無	巻	発行年	最初と最後の頁

〔学会発表〕 計 (0) 件 うち招待講演 計 (0) 件

通番	発表者名		発表標題	
①				
	学会等名	発表年月日	発表場所	

〔図書〕 計 (0) 件

通番	共著の有無*	著者名		出版社	
①		書名	発行年	総ページ数	

*欧州各国研究代表者との共著がある場合は○、欧州各国研究代表者との共著であり論文内に事業名を明記している場合は◎と記入した上で、明記されている箇所（頁、巻頭、巻末等）を記入。

*足りない場合は適宜行を追加して下さい。

1. この報告書は、最終年度を除く毎年度提出してください。
2. 本会の事業報告等に記載するための適当な写真がありましたら、説明を付して添付してください。
3. この報告書の 1. ～5. 及び 8. ～9. は、本共同研究の成果として本会ホームページに掲載するほか、報告書全てを閲覧用に公開します。また、この報告書を本会の事業報告として刊行する場合、内容に影響しない範囲で修正を行うことがあります。